

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あきは )

事業所番号	0691900096		
法人名	社会福祉法人双葉会		
事業所名	グループホーム桜の里双葉		
所在地	南陽市柗塚1632-19		
自己評価作成日	平成 31年 2 月 26 日	開設年月日	平成 30年 4月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「家庭的で思いやりのある介護サービスの提供」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「家庭的で思いやりのある介護」を目標に掲げ、一人ひとりに合ったケアができるよう努力している。管理者と職員は、特に、利用者一人ひとりが、事業所を「二つ目の家である」と認識してもらえるように、「話し掛け、一人ひとりのことを良く知り、コミュニケーションを密にし、希望を訊いている」。そして、「やりたいこと、できること」を聴き取り、感じ取りながら、「生きがいのある、充実感のある、満足感のある生活をできるように支援している」。また、食事を重要視し、「季節感や家庭的であることで食事を楽しいと感じるように」努力し、また、家族の協力を得ながら外食なども楽しめるよう、努力を重ねている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 31年 3月 11日	評価結果決定日	平成 31年 3月 20日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげている。	事業所は、「家庭的で思いやりのある介護」を基本的な目標とし、年度初めに基本方針を確認し、そして折に触れ職員間で確認しながら、支援に努めている。職員は、「事業所は利用者の第二の家」と思い、利用者が話したことを書きとめ、引き継ぎ、共有することで、一人ひとりに合ったケアをするよう心掛けている。」	グループホームの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員と話し合って作り、共有し実践に繋がるよう工夫を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が馴染みの店に出かけたり、外出などはできているが、近隣地域との交流はまだまだ少ないと感じる。認知症カフェ開催時など同席している。	開設二年目、地域との交流を多くするためさらに努力している。日頃の散歩や馴染みのスーパーでの買物、理容、お祭り見学や園児訪問などでの触れあいなどがあるが、管理者は、昨年度の目標達成計画で掲げたオレンジカフェを順調に重ねているので、これきっかけとして、多様な交流に進めたいと考えている。	運営推進会議の委員の支援などをいただきながら、日常的に地域と交流できるよう、着実な努力を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣と共催でオレンジカフェ開催。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えている。	市の職員、地区長2名、福祉の有識者、利用者の家族と職員で、2か月に一回開催している。運営の状況、利用者の生活の様子、行事、事故などを報告している。委員からは、地区の行事の情報の提供が有ったり、一般の目で時宜的な話題を出してもらい、自由な意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にも出席していただき、関係を築いている、相談報告も実施している。</p>	<p>市職員から運営推進会議に参加してもらい、意見や情報をいただくとともに、市と協力してオレンジカフェを開催している。その他基準の解釈など折につけ指導を得るなど、協力関係を築いている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていない。鍵については夜間帯や、職員一人の早朝、夜に施錠している。また自ら開けて出て行けるように、入口にセンサー設置し見守りながら行動できるようにしている。</p>	<p>毎年、法人全体で、身体拘束委員会を中心に研修を開催し職員に周知している。職員は禁止の対象となる具体的な行為やその弊害を正しく理解している。事故の惧れがある利用者についてはセンサーの設置等の工夫や個別のノートを作り、職員間で話し合い、その理由や兆候等を共有しながら、見守りを基本に、安全を確保している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修でも実施して職員参加している。また声掛けや介助の際ひとつひとつ丁寧に行うよう努めている。また無意識に行っていないか再確認するよう心懸けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修などで勉強する機会があったが、全職員の共通理解まではいたっていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱などの設置は未設置。個別個別での家族との話をする機会の際に情報収集している。	職員は、日常的に「とにかく利用者に話しかけ、コミュニケーションをとり、希望を訊き出すよう努力している」。家族からは、芋煮会やバスハイクの行事などに参加の案内を出して、面会・面談の機会を増やすように働きかけ、折に触れ希望を訊いている。昨年目標達成計画を踏まえて、「家族へのお便り」を出したが、これを充実したいと考えている。	引き続き、家族とのコミュニケーションの充実のあり方について、職員間で検討し、実施することを期待したい。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期でのグループホーム会議の実施はあるが、少人数の為、業務もありなかなかできていない。個別にその都度意見を聞き入れ皆で試行するなどを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員減の中、具体的に実施することは難しかった。各職員がそれぞれ提案をいただいたりした中で、できるものから少しずつ改善するようにした。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加。及び自施設内での事業所別研修の実施。	法人による階層別研修・部署別研修などの年間研修計画に加えて、所内で「認知症ケア」「事故防止」などの研修機会を設定している。資格取得の支援も行っている。これらの基本として、職員と管理職員との面談機会を設定し、目標管理や資格取得について話し合っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所管理者等に相談などは行っている。県のグループホームの関係機関の集まりなどへは未参加。	管理者等は、開設前から地域の同業者の職員と交流を行い、また、オレンジカフェの開催を通じて同業者と交流し、知識ノウハウの向上とネットワークの形成を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことを傾聴してできる限り安心できるサービス内容を取り入れるようにしている。話しやすい環境になるよう心懸けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望など傾聴し、文面でも収集している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることできそうなことを一緒に行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換し良好な関係を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで行かれていた店や床屋などにも状態見ながら行くようにしている。面会や来客の方も来やすい雰囲気づくりをしている。面会に来れなくても手紙や電話などの活用も。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごしてもらい関係づくりをする中で職員が中に入りながら行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してしまうとなかなかフォローに取り掛かる時間は取れなかった。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や24時間シート、私の気持ちシートなどの活用。以前の状態を再度家族に聞いたりして検討している。	利用者や家族から、利用開始前の面談時から、生活歴、得意・不得意などについて詳しく聴き取っている。そして、利用者については、日常生活での話しかけへの反応を細かに観察し、家族については、面談の機会を増やしながらか聴き取り、本人の意向を汲みとれるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時点で家族から今までの生活歴や性格なども含め情報収集につとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所して1か月は24時間細かな情報収集に努めて起床時間や日中の過ごし方就寝時間、夜間の様子など記録し様子観察している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリング記録を行い課題が出た場合は担当、CM中心に意見交換している。またミーティング時にも同様。	毎日の支援記録を基に、毎月、支援担当者がサービスの実施状況の確認と計画の評価を行い、状況の変化がなければ6か月毎に、サービス担当者会議で計画の見直しを行っている。会議では、家族も参加し、皆で意見を出し合い、現状に即した計画を作っている。職員は、特に、「やりたいこと、出来ることを大切に、充実感、満足感を得られるように」努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日モニタリング記録を行い課題が出た場合は担当、CM中心に意見交換している。またミーティング時にも同様。また日々の日誌記入での情報共有。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前から利用していた店舗、各機関、集まりなどの団体など今までのつながりを生かしながら現在の生活もできるようにしている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医に継続して受診している。基本家族対応しているが、情報の伝達を行い、必要時職員も同行している。	在宅時からのかかりつけ医の受診を、原則的には家族の支援で受けている。この際、昨年度の目標達成計画を踏まえて作成した「利用者情報書」を持参して医師に提供するようにし、結果情報も共有できるように連携を図っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。法人他事業所の看護師に医療面での相談行う。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のお見舞いなどのフォロー、洗濯物対応等実施。退院時の病院とのカンファレンス実施し退院後ホームでの対応について話し合い。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不在の為、実際終末期に近くなった場合などは看護師のいる法人他事業所への移動などの検討を行う場合がある。	利用開始に際して、重度化した場合の事業所で出来ること出来ないことは予め説明している。方針については状態の変化に応じて繰り返し話し合うこととしている。法人の関連する施設と連携し重度化に向けた支援に取り組んでいる。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在急変時の前例はないが、法人内部での研修を受けたのみで、現在マニュアル等整備していない。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。市主催の水害対策時の緊急避難場所への誘導訓練などの実施している。	年二回、事業所独自で火災対応の避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域との協力体制構築のため避難訓練等への参加を依頼している。水害対応の訓練も実施したことが有る。食については、事業所でも備蓄を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせた声掛けや対応ができるようその方をよく知り、敬意をもって接するようになっている。	職員は利用者一人ひとりを良く把握し、一人ひとりに合った対応をできるように努力している。また、「もう一つの家」の家族として、詳しく観察して、敬意をもった言葉掛けに努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけでなく本人の思いを大切に支援できるよう心懸けている。自己決定できる方については希望をお聞きし実施している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりの生活ペースに合わせた支援を心懸けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただいたり、ご自分の希望の床屋さんなどに行き好みの髪形などにしていたりしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理作業をしていただいたり、片付けを行っている。一緒に献立を考えたり買い物にも同行している。	朝・昼・晩、三食とも、手作りで、温かい食事を楽しんでいる。メニューは利用者の意見を訊きながら定めており、多彩である。皮むきを行ったり、得意な方は役割を担っている。季節の行事食や、誕生日メニューなども有り、また、家族の協力で外食も有り、食の楽しみに配慮、工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った形状、量、物の提供している。また3食記録し体調面の様子観察も行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいなどの口腔ケアの実施の声掛け、支援介助行っている。夜間は義歯洗浄消毒の支援行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録チェック表の使用。声掛けが必要な方には誘導したり、失禁が多い方は回数や、時間を見て検討したりしている。夜間オムツ対応の方も巡視時の状態を見て誘導などしている。	排泄チェック表を基に、医師にも相談しながら、職員間で検討しながら、適時の声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。また、昼間はオムツなしで対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回の体操や、食事面での水分摂取、繊維質や乳製品の摂取などの面からも工夫している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本午後からの3～4時間程度の時間内での入浴になるが、なるべく本人の希望に沿い入浴していただいている。拒否の在る方については職員同士で情報交換し工夫している。	一般浴とリフト浴が設備され、本人の希望を踏まえながら、安全に入浴できるよう支援している。入浴したくない場合は理由を検討したり、声掛けや誘導、支援者を工夫したりしている。また、入浴剤で楽しみを付加している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた環境を整え、また体調面も考慮し臥床すすめたり、状態に合わせて声掛けしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な方には介助行い誤薬防止、服薬確認を行っている。変更時皆に申し送りしている。ただ薬の内容まで全部把握しきれない状況だと思う。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日やイベント時などは何が食べたいか聞き取り行って対応している。日常では日々の中で自分が受け持つ仕事としての張り合いを持たれている方もいる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方を巻き込んでの支援はまだまだできていないと思う。個別では外出や買い物、近隣の散歩などしている。家族対応での外出は家族協力できる方などは実施している。	日常的な散歩、買い物、畑・花壇の手入れなどで外気に触れる機会を大切にしている。駐車場で芋煮会も開催したり、隣接施設の祭りに参加したりしている。また、計画的に、花見や菊まつり見学、ドライブなど、行事・イベントなども行っている。家族との協力関係を大切に、受診の際に外食したり、身の回り品の買い物なども支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方については個人で所持され、買い物や通院時などの金銭の使用を行っている。ただし多額の金銭はご遠慮いただいている。預かり金については、毎月出納帳をつけている。本人希望時使えるようにしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話をしたり、手紙をいただいたら返事を書いてみたらと進めている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度調節や清潔を保つよう心懸けている。季節感の演出などはまだ物足りなさを感じている。	居間は明るく、温度や湿度を快適に管理されている。そこには、テーブル・椅子・ソファが置かれ、隣接の和室には炬燵もある。そしてそこは、雛や思い出の写真が飾られている。ゆったりとした空間で、利用者はそれぞれが思い思いに寛いでいる。管理者は、さらに季節感のある雰囲気を検討したいと考えている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置などで思い思いに過ごせているかは不安である。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物などを持参して自宅に近い風息ができるように家族にも協力いただいている。また動きやすい動線になっているか本人と共に確認して配置している。	従前と変わらない生活とするため、馴染みの身の回り品を持ち込み、また、楽しい思い出の写真や張り紙作品で壁面を飾るなど、それぞれの個性が感じられる居室となるように工夫されている。清掃にも配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどの場所が分かりにくい方には大きく表示するなどして工夫している。		